

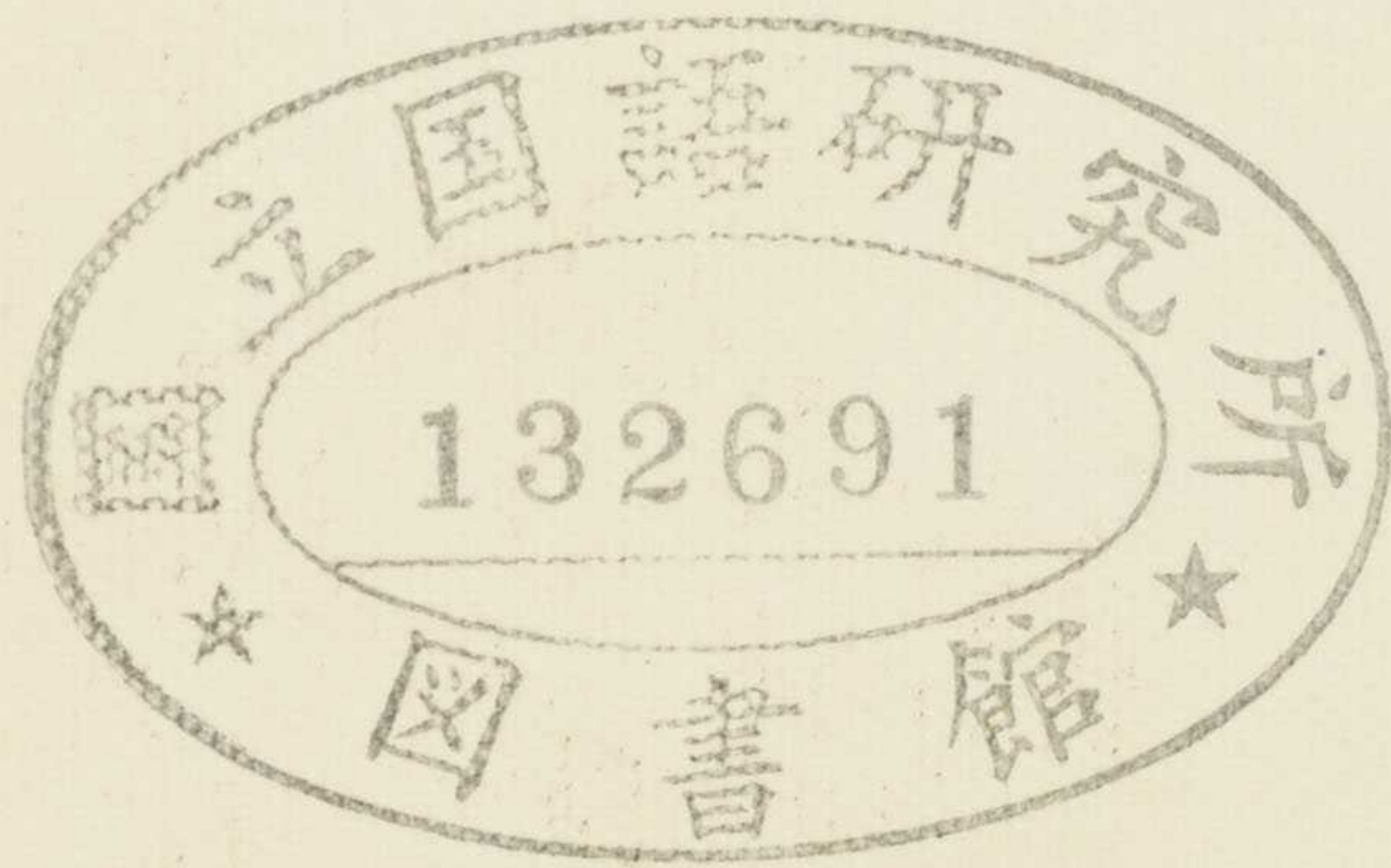
に  
っ  
ぽ  
ん  
ご  
の  
ほ  
ん

三  
ね  
ん  
下



KN-  
N  
3







に  
っ  
ぽんごの

ほん

三  
ねん  
下



東京都千代田区霞が関3-2-2

文化庁文化部国語課



もくじ

1 せんせいと せいと

すなあそび……………4

みんなの きょうしつ……………8

2 おはなし

たいようと 北かぜ……………14

キハプの かい……………22

3 のはら

たんぽぽ……………32





たいようの うち…………… 38

4 よくみる こと

まめの たね…………… 44

たねの りょこう…………… 52

5 うらしまたろう

うらしまたろう…………… 58

なつやすみに したい こと…………… 70

○かんじ…………… 77

○かたかなと ひらがな…………… 78





1 せんせいと せいと

すなあそび

すなで 山を つくりましょう。

山に トンネルを ほりましょう。

すなに 川を ほりましょう。

川の りょうがわに、

木を うえましょう。

川に はしを かけましょう。





はしの こちらがわに、町を

つくりましょう。

がっこうや ゆうびんきょくを

ならべましょう。

いろいろな みせも ならべましょう。

町の ちかくに、ひこうじょうを

つくりましょう。おもちゃの

ひこうきを ならべましょう。





まとめとれんしゅう 1

つくる → つくりましょう

ほる → ほりましょう

うえる → うえましょう

かける → かけましょう

ならべる → ならべましょう

をつくる。

をほる。



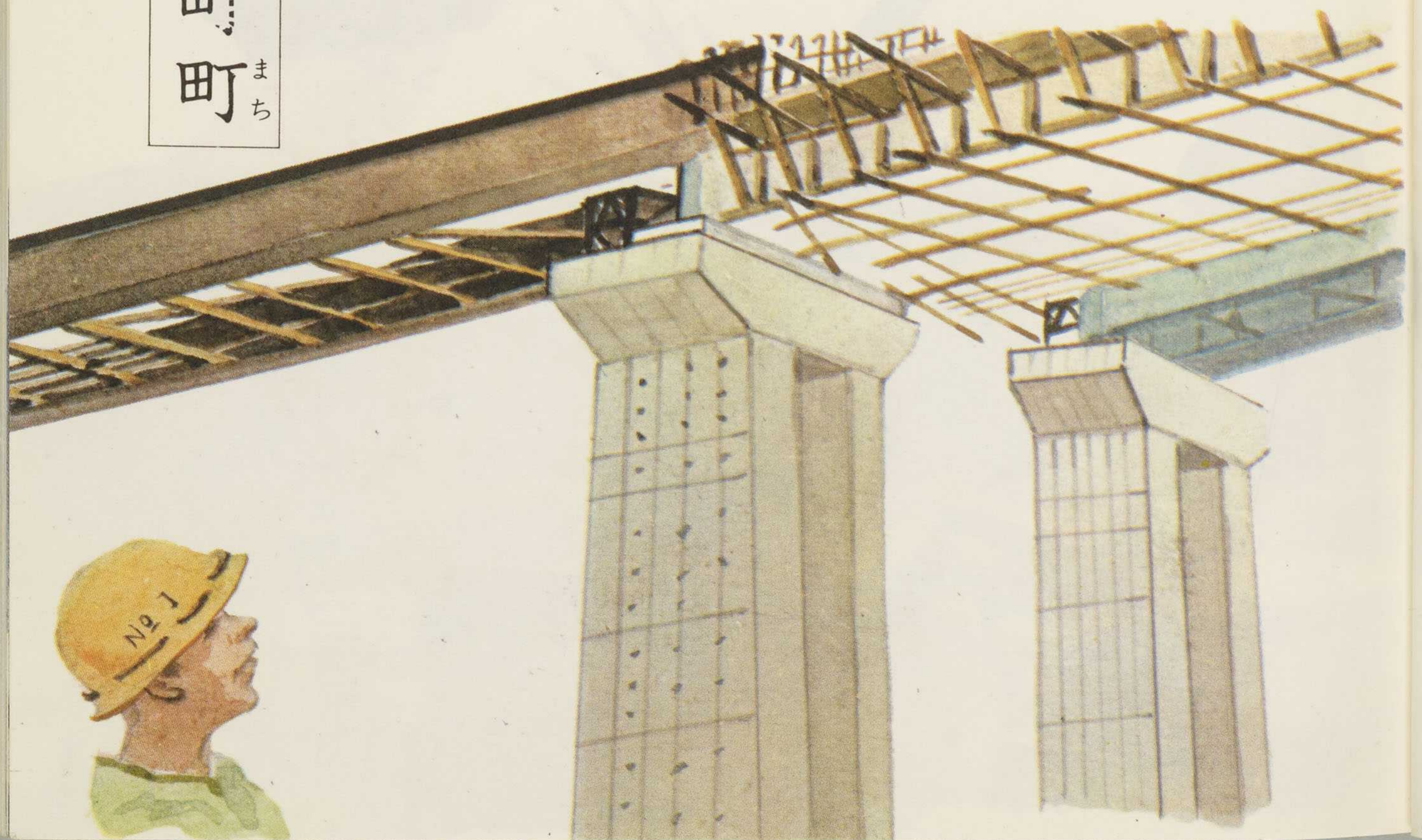
をうえる。



山 川 木 木 木 木  
 町 町 町 町 町 町 町  
 町 まち

トンネル  
 とんねる

ちかく  $\updownarrow$  とおく  
 こちらがわ  $\updownarrow$  むこうがわ  
 みぎがわ  $\updownarrow$  ひだりがわ  
 を うえる。  
 を かける。  
 を ならべる。





みんなの きょうしつ

せんせい 「きれいな

花ですね。

だれが もって

きましたか。」

はるこ 「ひろこさんです。」





せんせい

「そうですか。

ひろこさん、ありがとう。

きょうしつが、とても

あかるく なりました。

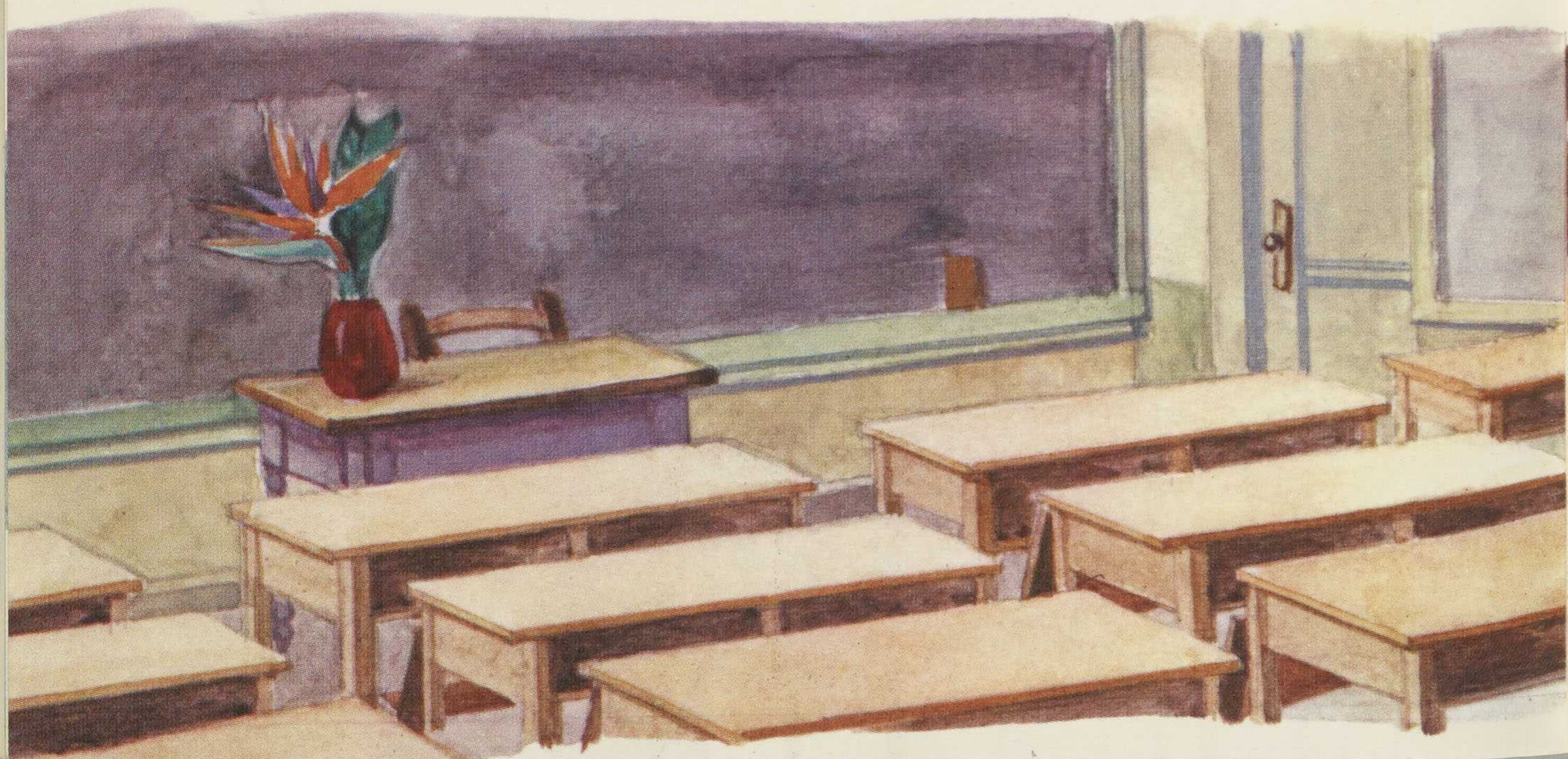
つくえも いすも、きちんと

ならんで いますね。」

いさむ

「たかしくんと きみこさんが

ならべました。」





せんせい「それは、よいことをしました。

きょうしつを、みんなで  
きれいにしましよう。

花をかざったり、  
つくえやいすを「きちん  
ならべたり、しましよう。

そのほか、どんなことに  
きをつけますか。」





いちろう「わたしは、かみくずを

おとしません。」

はなこ「わたしは、きょうしつの

かべを、よごしません。」

せんせい「それは、よい

かんがえです。

みんなで、そうしまししょう。」

きれいな  
おへや



まとめとれんしゅう 2

だれが もって ききましたか。

ひろこさんが もって ききました。

だれが ならべましたか。

たかしくんが ならべました。

じどうしゃが ならんで います。

みせが ならんで います。

つくえを ならべました。

くつを ならべました。

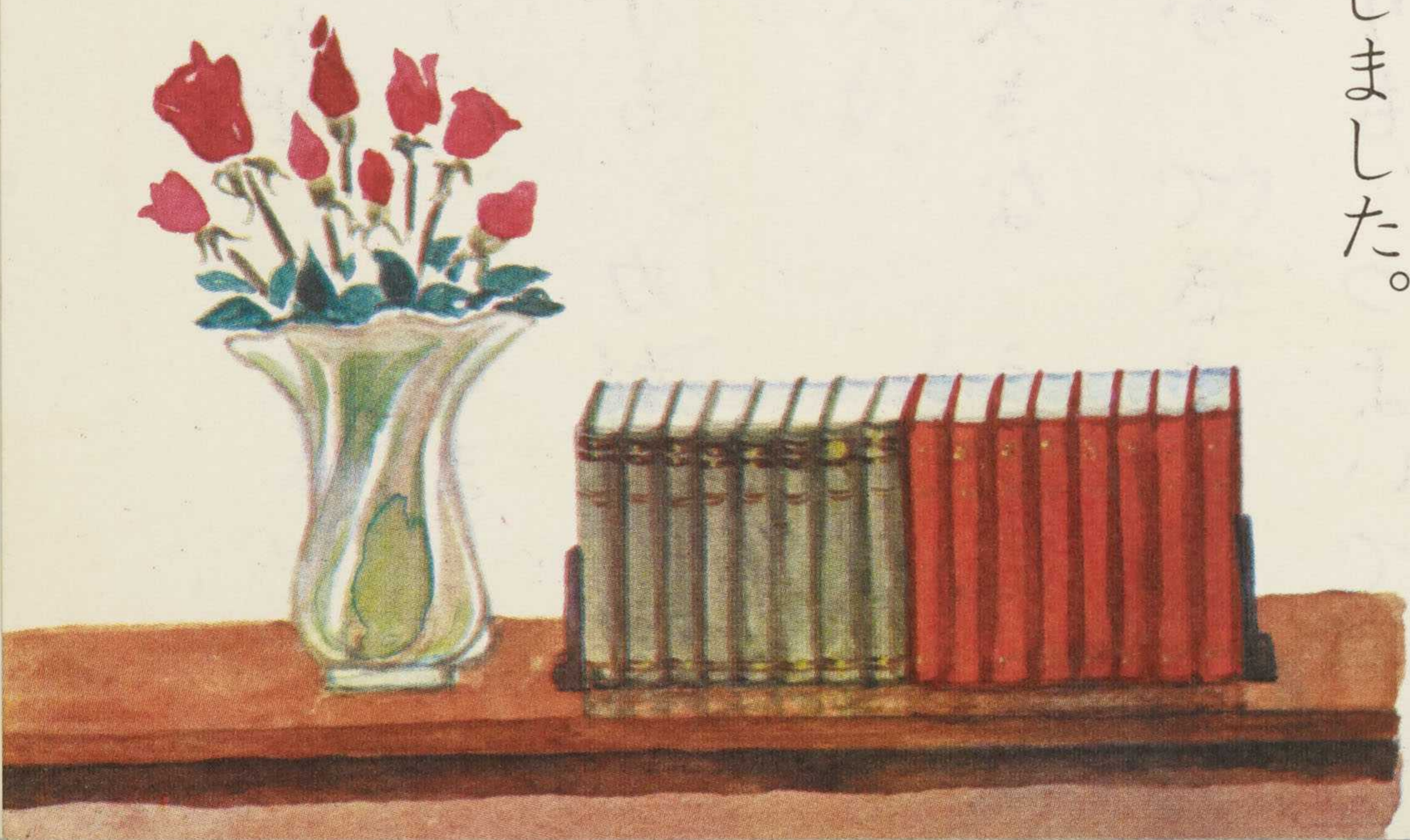


花を  
かざったり、  
つくえを  
ならべたり  
しました。



花 花 花 花 花 花 花  
はな

き ち ん と	き ち ん と	ほ ん を	み ず を	花 を
お き ま す。	な ら べ ま す。	よ ん だ り、	の ん だ り、	か ぎ っ た り、
		て が み を	お か し を	つ く え を
		か い た り	た べ た り	な ら べ た り
		し ま し た。	し ま し た。	し ま し た。







ふき

2 おはなし

たいようと 北かぜ

北かぜが、たいように いました。

「わたしは、だれよりも カが

つよいです。

大きな ふねも、大きな うちも、

ふきとばす ことが できます。

わたしは、だれよりも つよいです。」

おはなし、ふきとばす、たいよく、北かぜ、うちは、大きな、ふねも、大きな、うちも、ふきとばす、ことができます。





たいようが、ここにこわらって  
いいました。

「それでは、あなたの力を  
みせてください。

あそこに、男の人が、ままじ  
がいどうを思きて入るいて  
います。あのがいどうを、  
ぬがせることが、できますか。」







「ええ、できます。」

と北かぜはいいました。

北かぜは、男の人に

むかって、つよくふきました。

「おおきむい。」

男の人は、しっかり





がいとうを おさえました。

北かぜは、もつと つよく

ふきました。

男の人は、

もつと しっかり

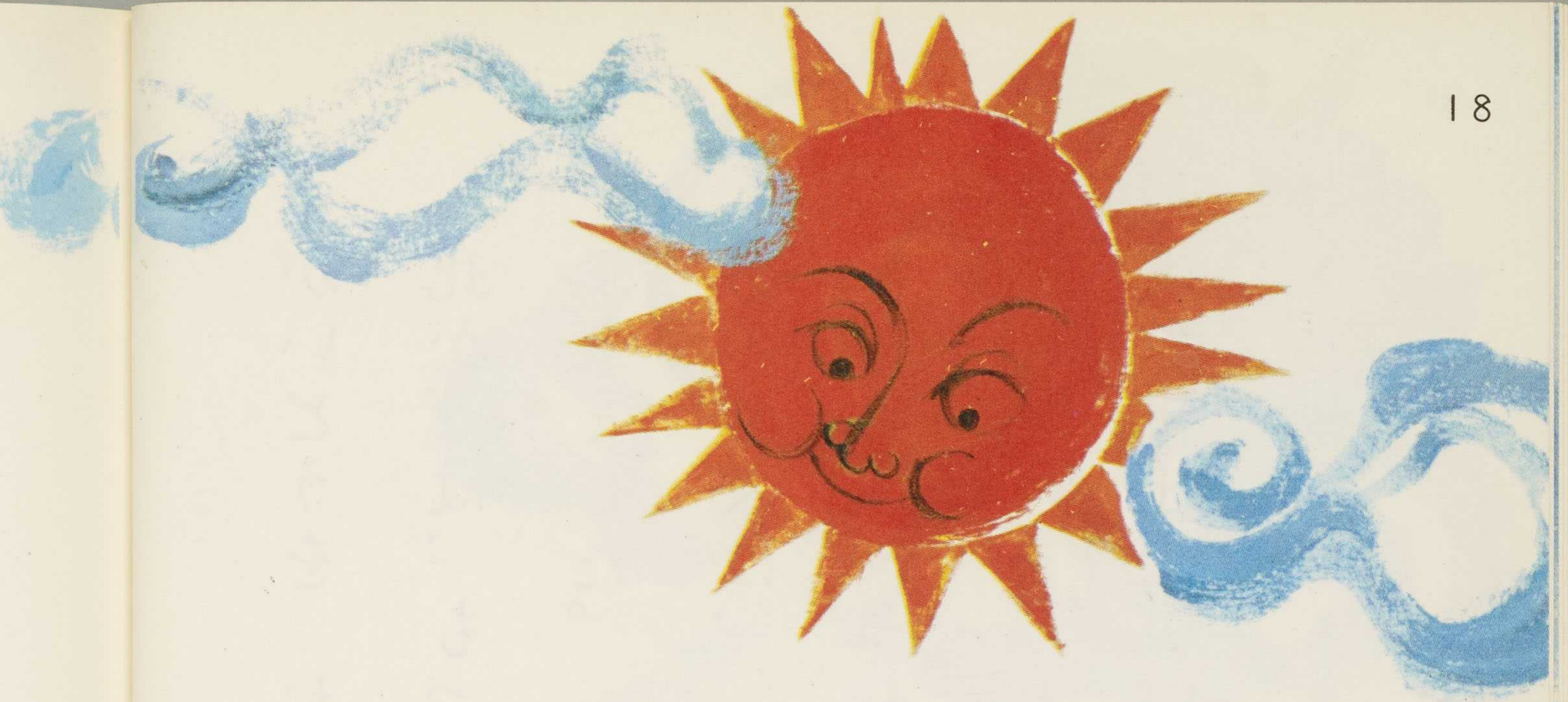
がいとうを おさえました。

北かぜは、がいとうを ぬがせる

ことが できませんでした。







「では、こんどは わたしの  
ばんです。」

と、たいようが いいました。

たいようは、くもの 中から

でて、男の 人を

てらしました。



「あたたかく なりました。  
がいとうを ぬぎましよう。」  
男の人は、  
すぐ がいとうを  
ぬぎました。





まとめとれんしゅう 3

ふじさんは たかいです。

マウナケアは もっと たかいです。

にいさんは つよいです。

おとうさんは もっと つよいです。

わたしは だれよりも つよいです。

ひこうきは ふねよりも はやいです。

アメリカは にっぽんよりも 大きいです。





男の 人が がいとうを ぬぎました。

たいようは、男の 人の がいとうを ぬがせました。

わたしは くつを ぬぎました。

おかあさんは、子どもを ぬがせました。

つよい かぜ

つよく ふきます

はやい じどうしや

はやく はしります

人 人 ひと

北北北北北 きた

ウカ ちから

六大大 おお きな

男男男男男 おとこ







キハプの かい

むかし、オアフとうに

カプニと いう 大男が

いました。カプニは、そらを

とぶ ことが できました。

ある 日、カプニは、

ヌアヌの たにの 上を

とんで いました。



すると、大きなほらがい

おとが、きこえてきました。

ヌアヌのほらがいの

おとです。

カプニは、ほらがい

ほしくなりました。





ある ばん、カプニは  
こっそり ほらがい  
を  
ぬすんで、モロカイとうへ  
にげていきました。  
カプニは、海の上を  
とんでいきました。





ほらがいはい、たかいなみに

ぶつかって、ブーウと なりました。

ばんにんが きいて、

おいかけて ききました。

けれども、カプニは どんどん

にげました。とうとう、

ハワイ島まで いきました。





カプニは、ハワイ島に

おみやをつくりました。

そこに、ほらがいを

かくしました。

ほらがい、ときどき

ブーウ、ブーウと

大きなおとをたてました。





ハワイ島には キハと いう  
王さまが いました。  
キハは、じぶんの 犬に  
「あの ほらがいを  
もって きなさい。」  
と いいつけました。





キハの犬は、  
おみやの七つの  
へいをとびこえて、  
ほらがいをもって  
きました。  
ほらがいは、キハの  
ものになりました。





あとで、この ほらがい、  
ハワイの たからものに  
なりました。  
この ほらがい、  
「キハプの かい」と  
いいます。





まとめとれんしゅう 4

キハの ものに なりました。

たからものに なりました。

王さまに なりました。

大きな 木に なりました。

カプニと いう 大男

キハと いう 王さま

いっすんぼうしと いう 男の子





はわい  
ハワイ

きはぶ  
キハプ

かぶに  
カプニ

おあふ  
オアフ

ぬあぬ  
ヌアヌ

もろかい  
モロカイ

ハワイ島まで にげました。  
がっこうまで あるきました。  
おきの ふねまで およぎました。

かがつよい  
カプニ

なな  
七つ

しち  
七じ

島島島島島島 <small>しま</small>	海海海海海海 <small>うみ</small>
犬犬犬犬 <small>いぬ</small>	王王王王 <small>おう</small>





3 のはら

たんぽぽ

ひろい のはらです。

すみれや、れんげや、

たんぽぽの花が、

さいて います。

子どもたちが、げんきよく

あそんで います。





ひとりの子どもが、

たんぽぽをふみました。

たんぽぽはたおれました。

あおいとつぼみの

たんぽぽです。

「いたいでしょね。

いたいでしょね。」

と、ほかの花が  
いいました。





つぼみのたんぽぽは、  
なきませんでした。

「がんばりましょう。

げんきに なって、

花を さかせましょう。」

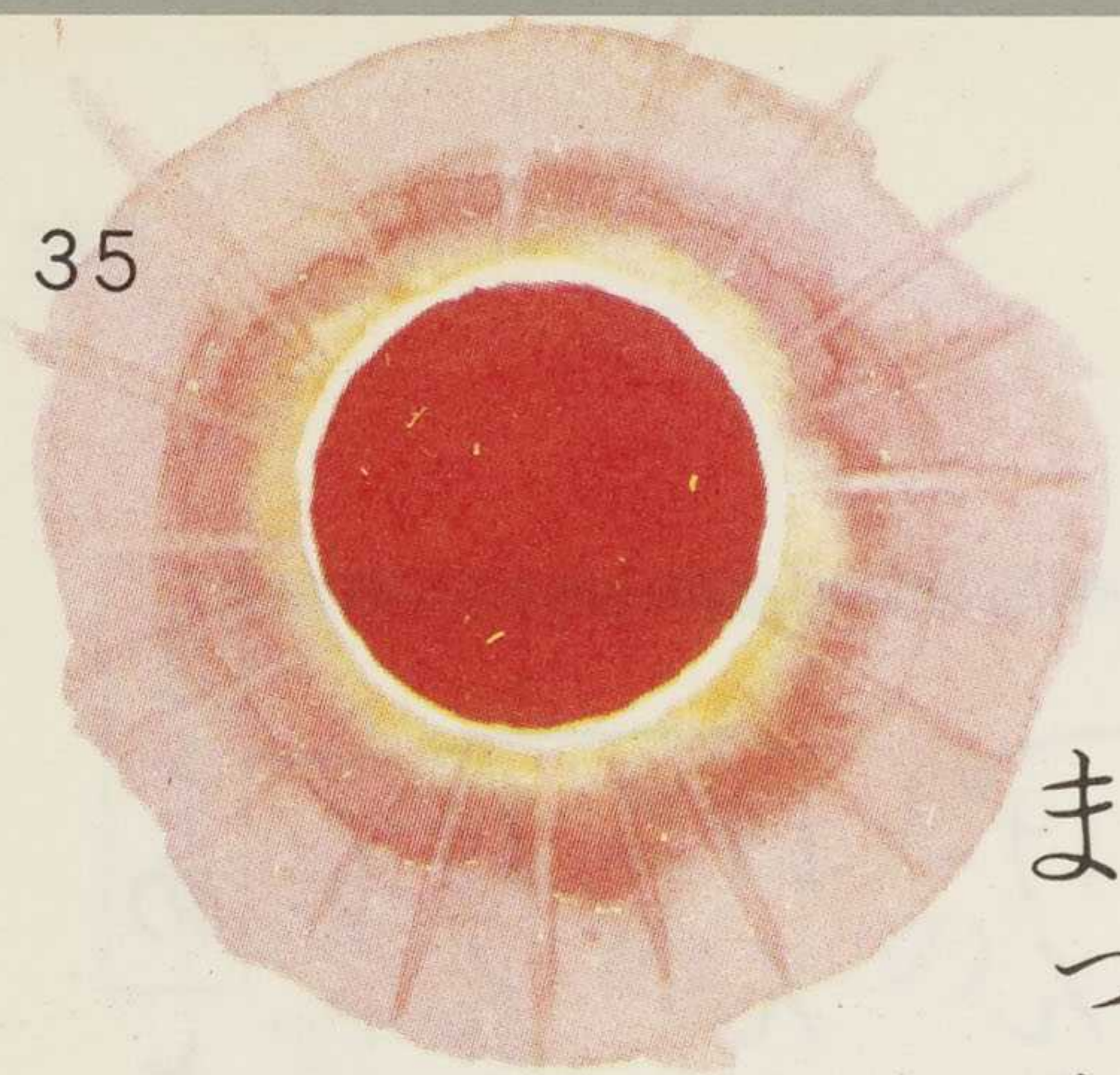
と いいました。

たいようが、高い

空から いいました。







「しっかり。しっかり。

あたたかい ひかりを、

たくさん あげますよ。」

たんぽぽは、だんだん

おきあがりました。とうとう、

まっすぐにたちました。

たいようにむかって、どの花よりも

大きい花をひらきました。





まとめとれんしゅう 5

げんきよく あそんで います。

げんきよく およいで います。

げんきに なりました。

げんきに うたいました。

あおい つぼみの たんぽぽ

あかい やねの いえ

しろい ゆきの やま

たんぽぽの 花が さきます。

たんぽぽは 花を さかせます。



おきあがりました。



高高高高高高たか  
 空空空空空空そら

どの 山よりも 高い 山

どの へやよりも あかるい へや

どの 花よりも 大きい 花

どうとう  
 {  
 あめが ふって ききました。  
 はなが さきました。  
 まっすぐに たちました。
 }

だんだん  
 {  
 おきあがりました。  
 さむく なります。  
 じょうずに なります。
 }





たいようの うち

島の 子どもが いいました。

「たいようは、

海から でて、

海に はいります。

たいようの うちは、

海の中

にあります。」





山の子どもが いました。

「いいえ、ちがいます。」

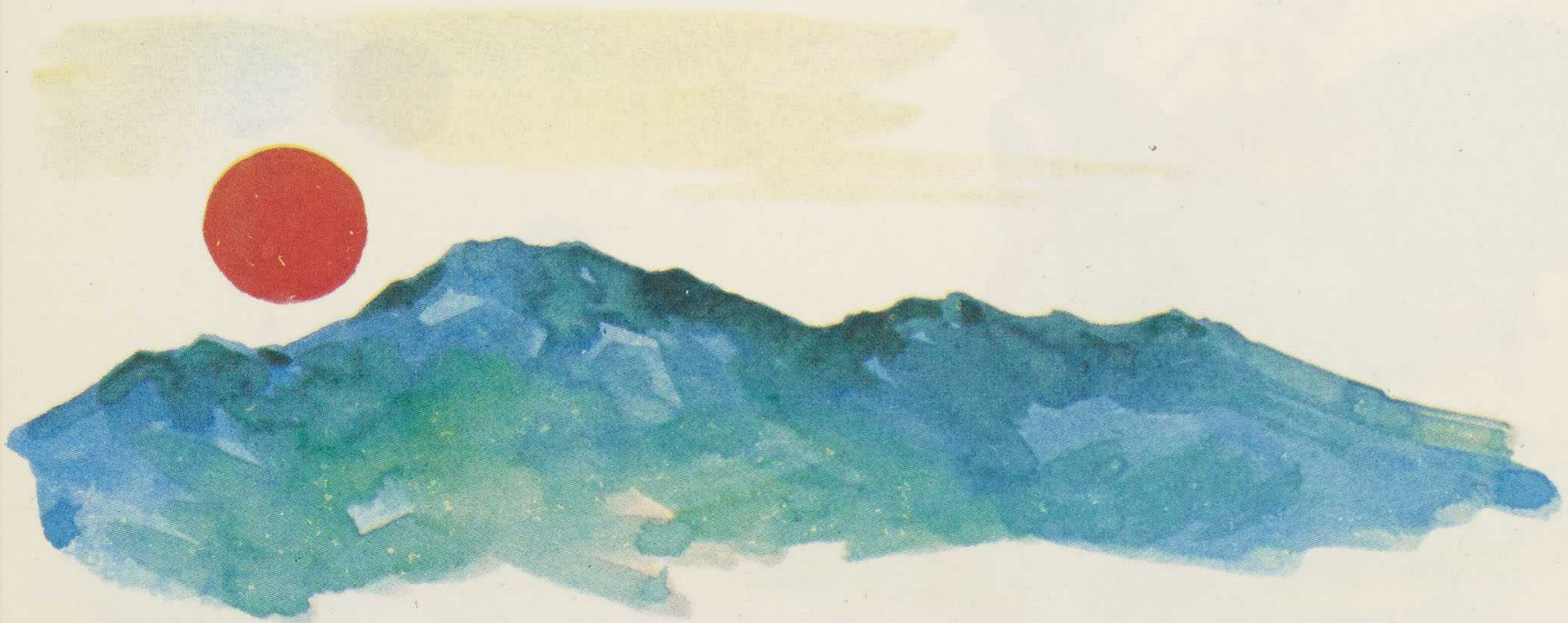
たいようは、

東の山から でて、

西の山に はいります。

たいようの うちが、

山の むこうです。」





村の子どもがいました。

「ふたりともちがいます。」

たいようは、はたけからでて、

はたけにはいります。

たいようのうちは、

はたけの中です。」

三人は、たいようのうちを





さがしに いきました。

島の 子どもは、おきへ

ふねを こいで いきました。

山の 子どもは、山へ

のぼって いきました。

村の 子どもは、はたけの

みちを あるいて いきました。

だれが、たいようの うちを みつけたでしょう。





まとめとれんしゅう 6

海からでます。

海にはいります。

海からでて、海にはいります。

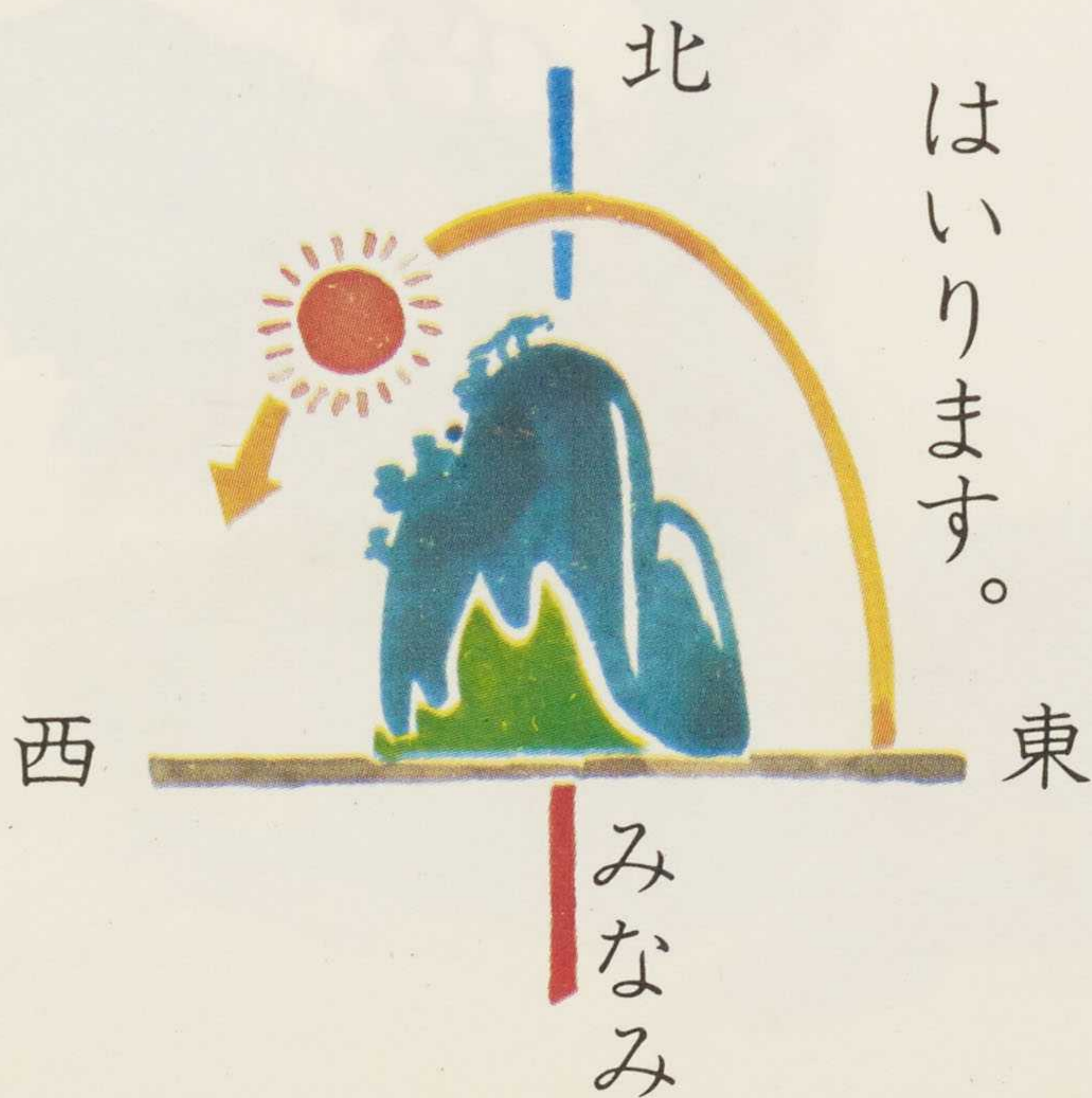
東の山からでます。

西の山にはいります。

東の山からでて、

西のやまにはいります。

東と西 北とみなみ





東東東東東東東ひがし

西西西西西にし

村村村村村むら

ふたりとも ちがいます。

ふたりとも せが たかいです。

ふたりとも やせて います。

二ひきとも ふとって います。

ふねを こいで いきました。

山へ のぼって いきました。

みちを あるいて いきました。





4 よくみる こと

まめの たね

四月十一日

まめの たねを うえました。

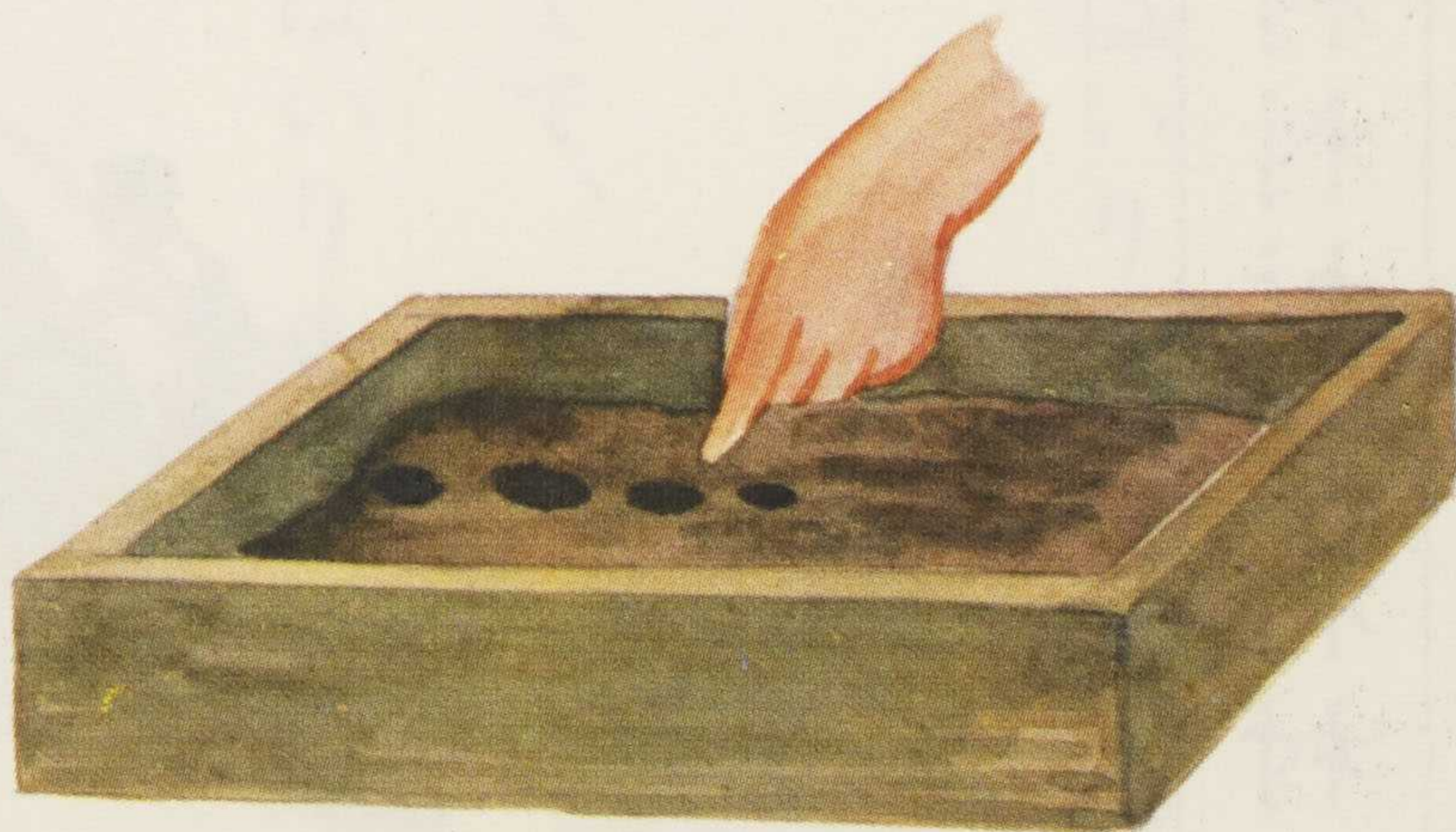
はじめに、木の はこに

土を いれました。

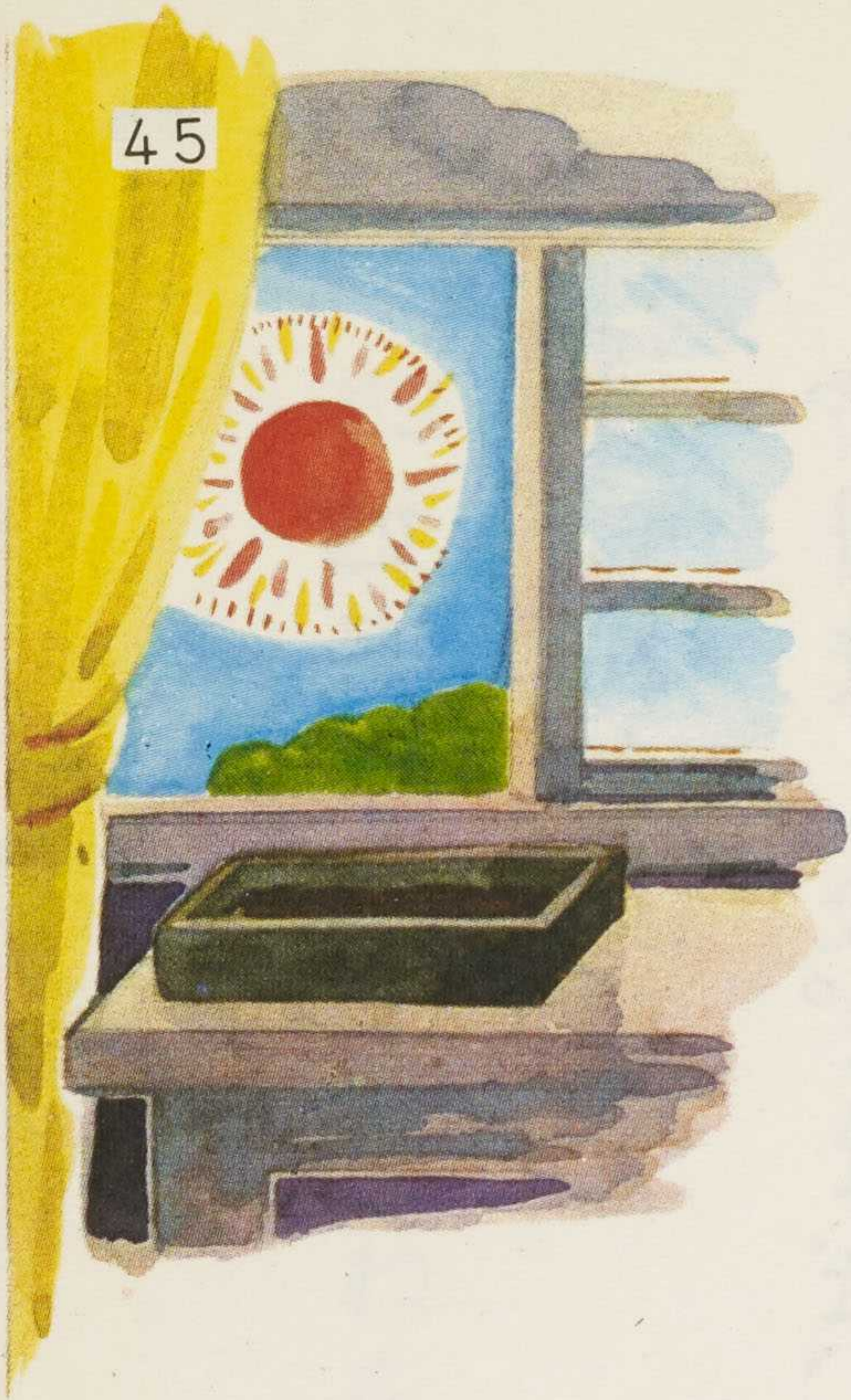
土の ふかさは、

二インチぐらいです。

それから、土に ゆびで







あなを あけました。

あなに まめを 一つずつ

いれました。

土を かけて、水を すこし

やりました。

はこを、みなみの まどの

そばに おきました。





四月十五日

まいにち 水を

やりました。まだ、土の

上には なにも みえません。

一ばんめの たねを、ほりだして みました。

たねは ふくれて、かわが やぶれて いました。

四月十六日

二ばんめの たねを、ほりだして みました。





たねのはしから、しろいねがでて  
いました。

四月十七日

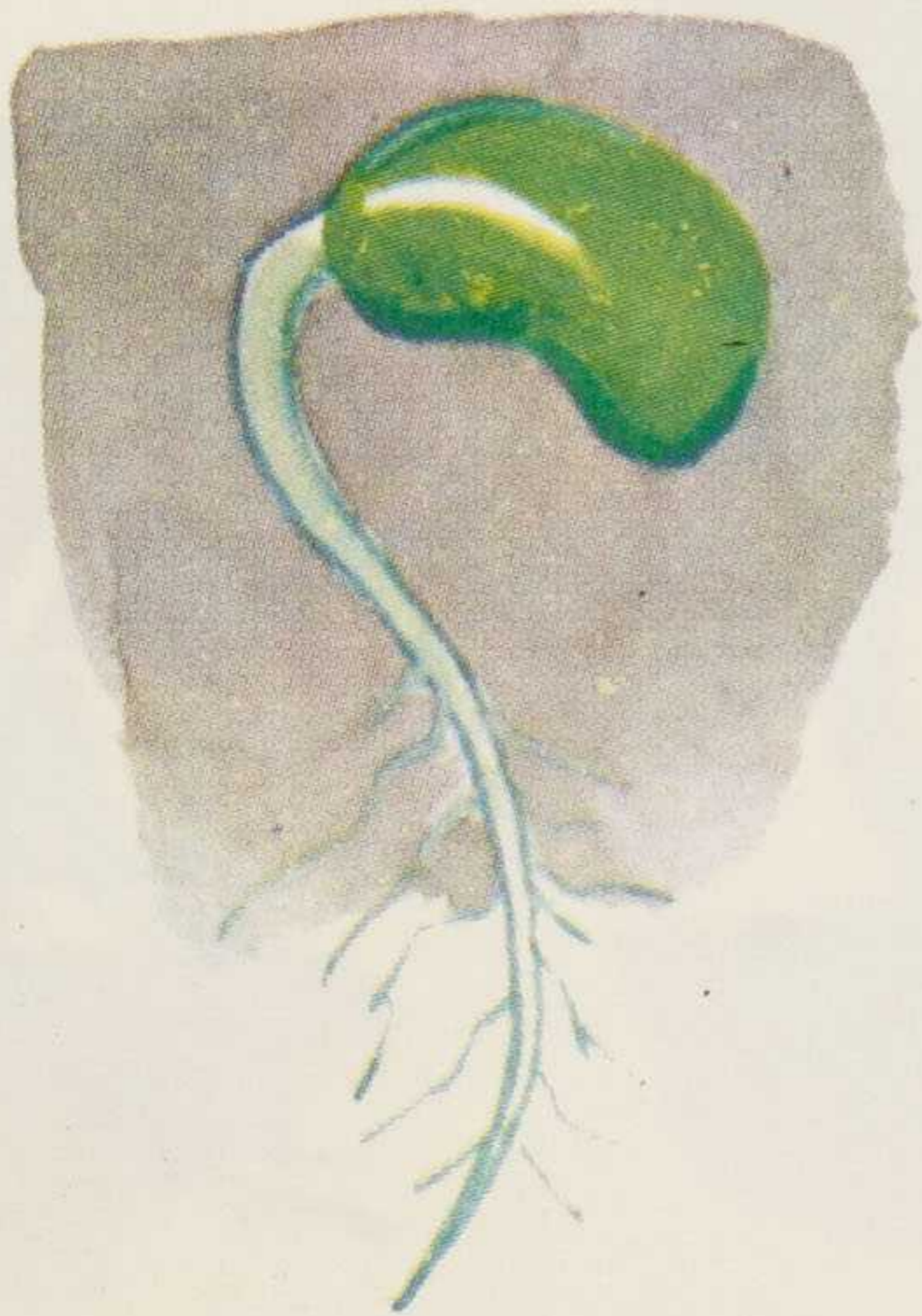
三ばんめのたねを、ほりだして  
みましました。

ねにほそいひげが

はえていました。

四月十九日

四ばんめのたねを、ほりだして  
みましました。





ねは、ながく なって、ひげが  
たくさん でて います。

四月二十一日

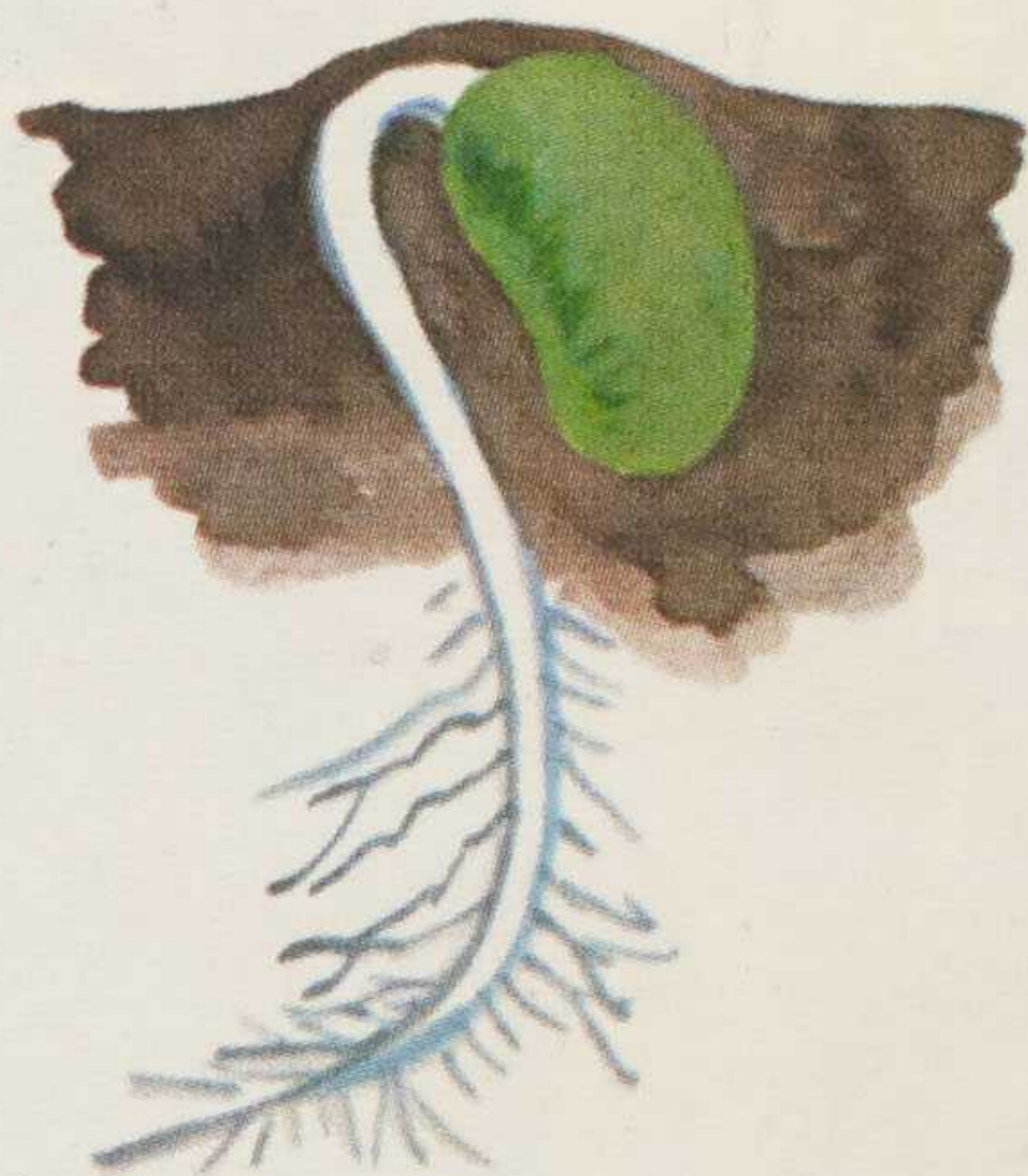
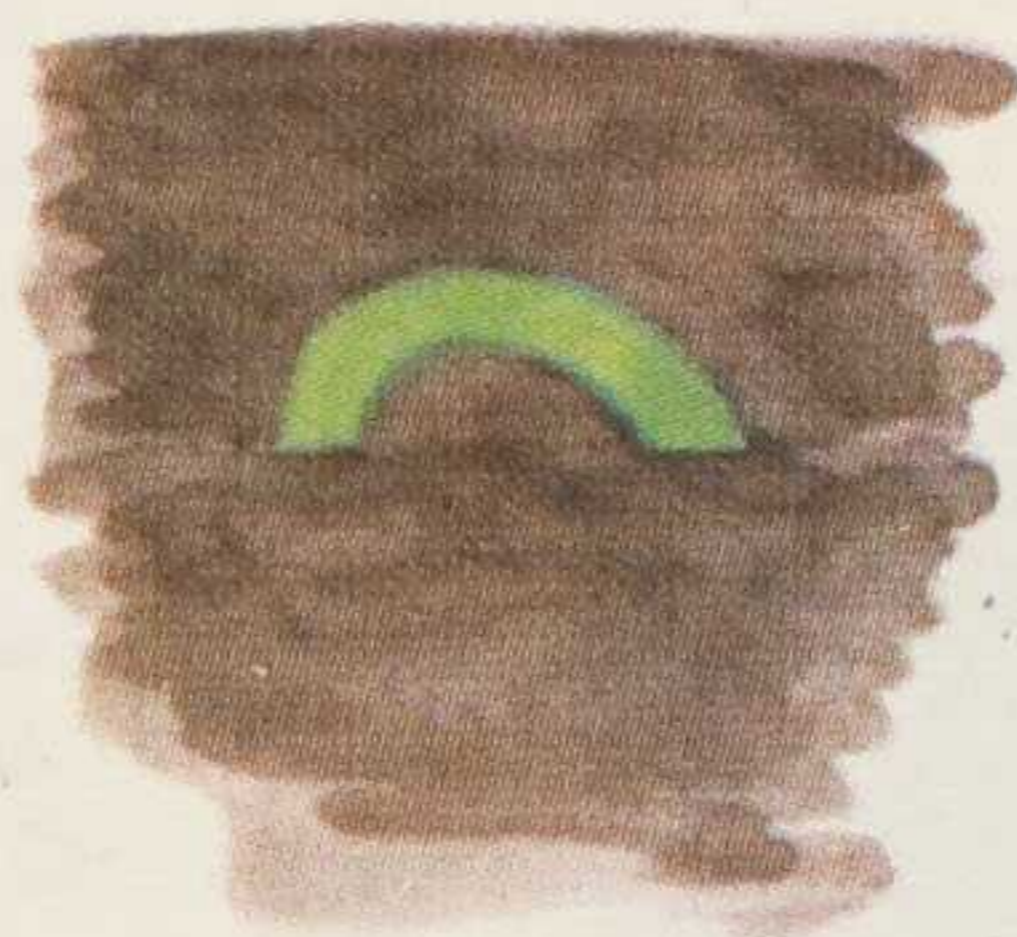
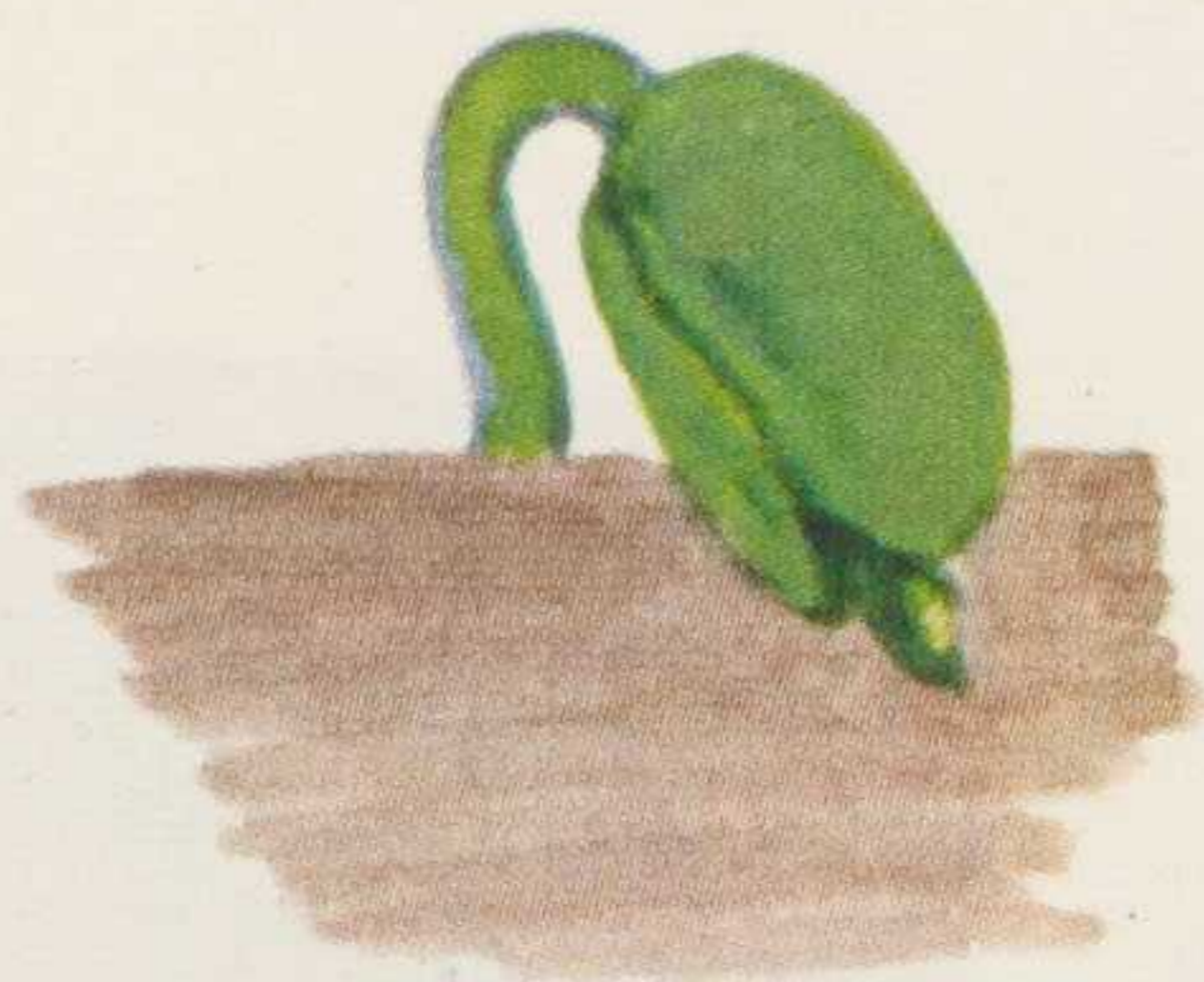
土の 上に、ねが でて

きました。

四月二十三日

ねは、みどりいろの くきに

なって、のびて いきます。くきは、たねを





土の上にもちあげました。

四月二十四日

たねが われて ひらきました。

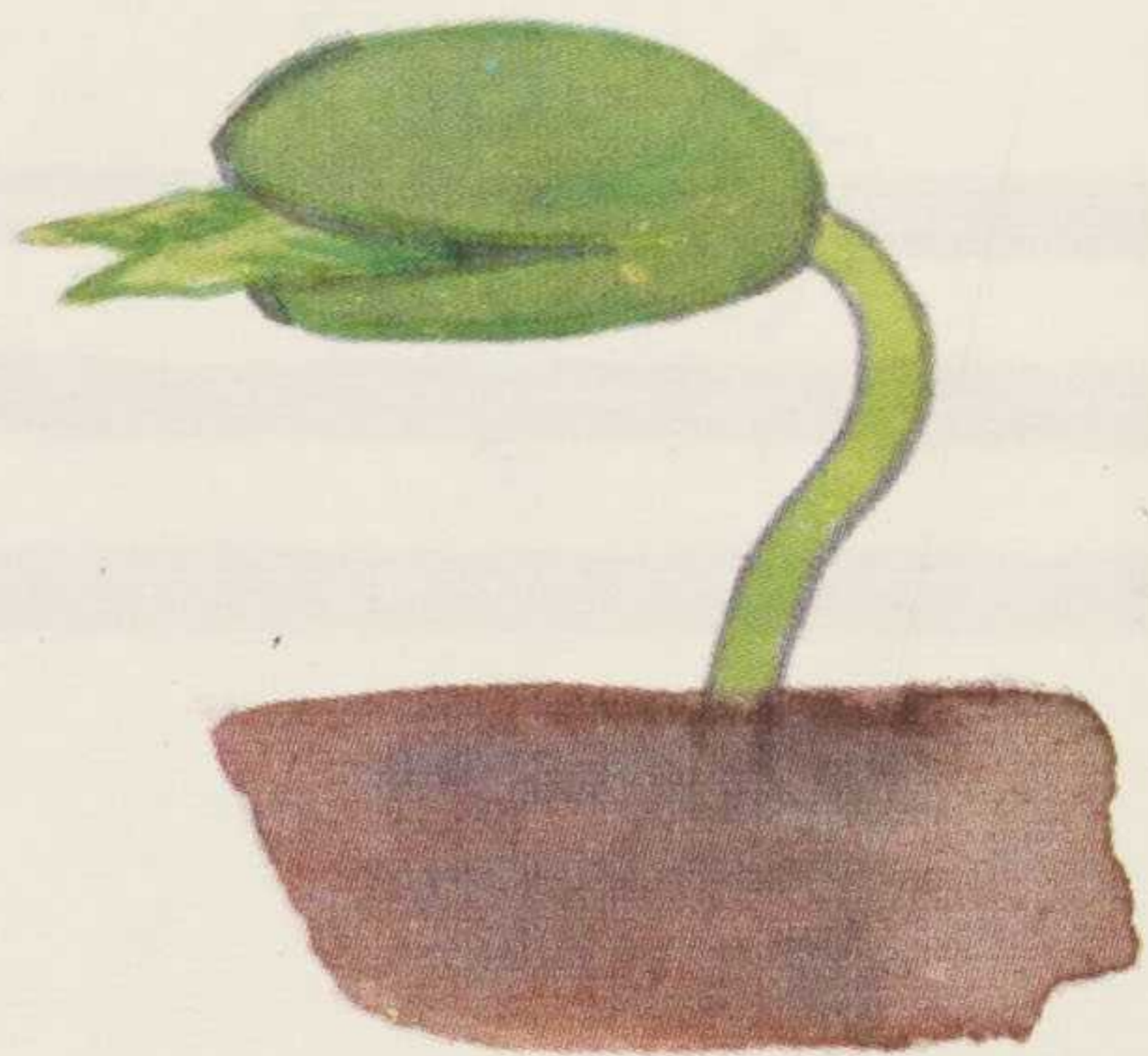
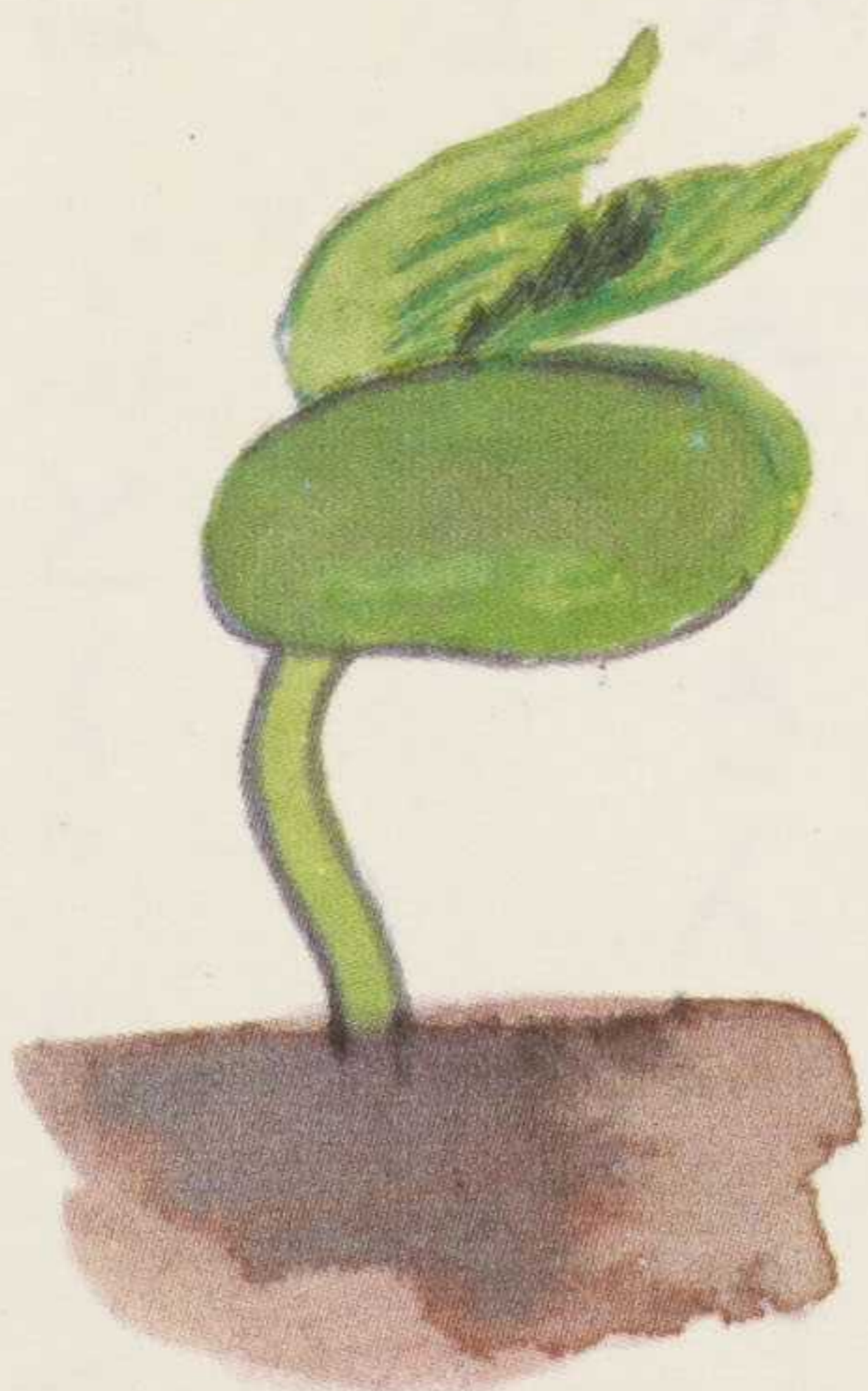
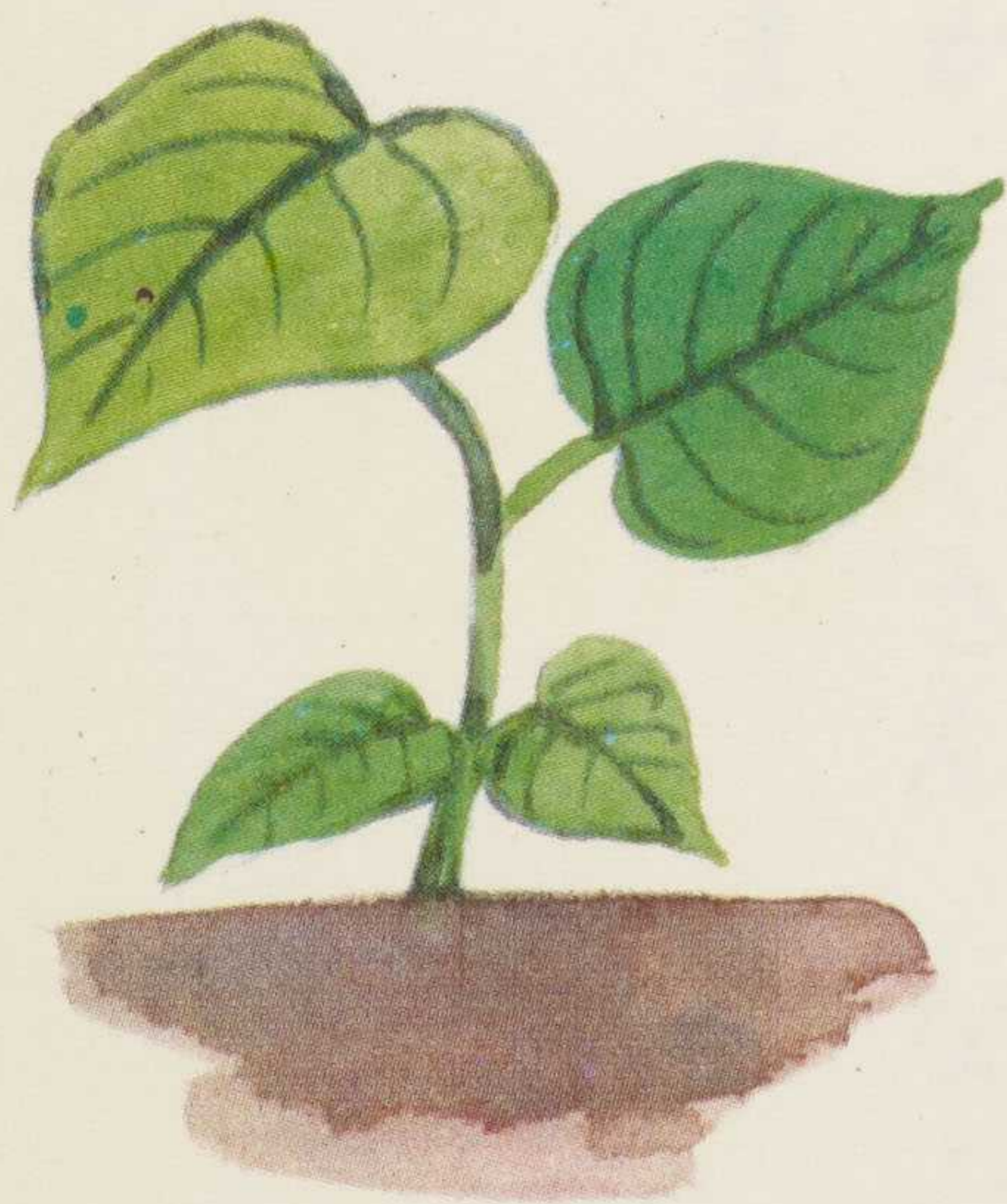
中から、みどりいろのはが、

二まいでてきました。

四月二十六日

くきは どんどん のびて

いきます。はが ふえました。





まとめ と れんしゅう 7

一つずつ

二つずつ

三つずつ

一ぼんずつ

二ぼんずつ

三ぼんずつ

一ばんめ

二ばんめ

三ばんめ

ふくれて

いました。

やぶれて

いました。

はえて

いました。





四月がつ十一日いち

土つち

水みず

ねは ながく なりました。

ひげが たくさん でて います。

くきは たかく なりました。

花が たくさん さいて います。

木は ふとく なりました。

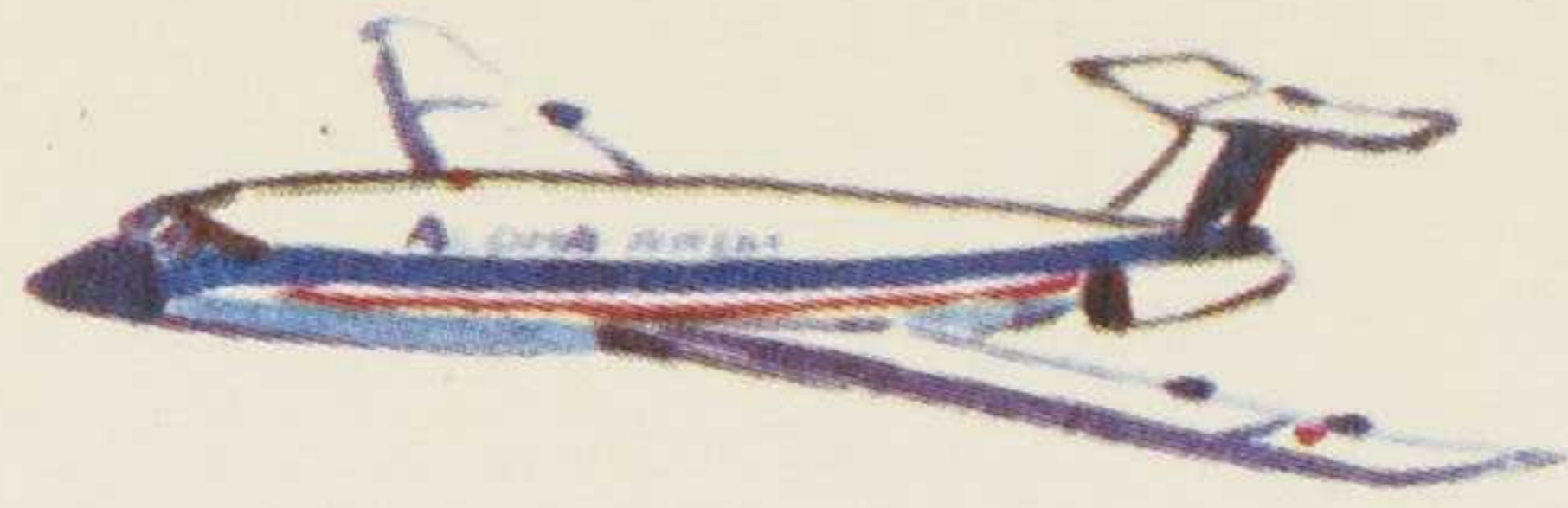
みが たくさん なって います。

ねは ながく なって、  
ひげが たくさん でて  
います。

くきは たかく なって、  
花が たくさん さいて  
います。

木は ふとく なって、  
みが たくさん なって  
います。





たねの りよこう

にんげんは、ひこうきや ふねに のって、

せかいじゅうを りよこうします。

とりも、空を とんで りよこうします。

さかなも、海を およいで りよこうします。

木や 花は、りよこうする ことが できません。

けれども、木や 花の たねは りよこうします。

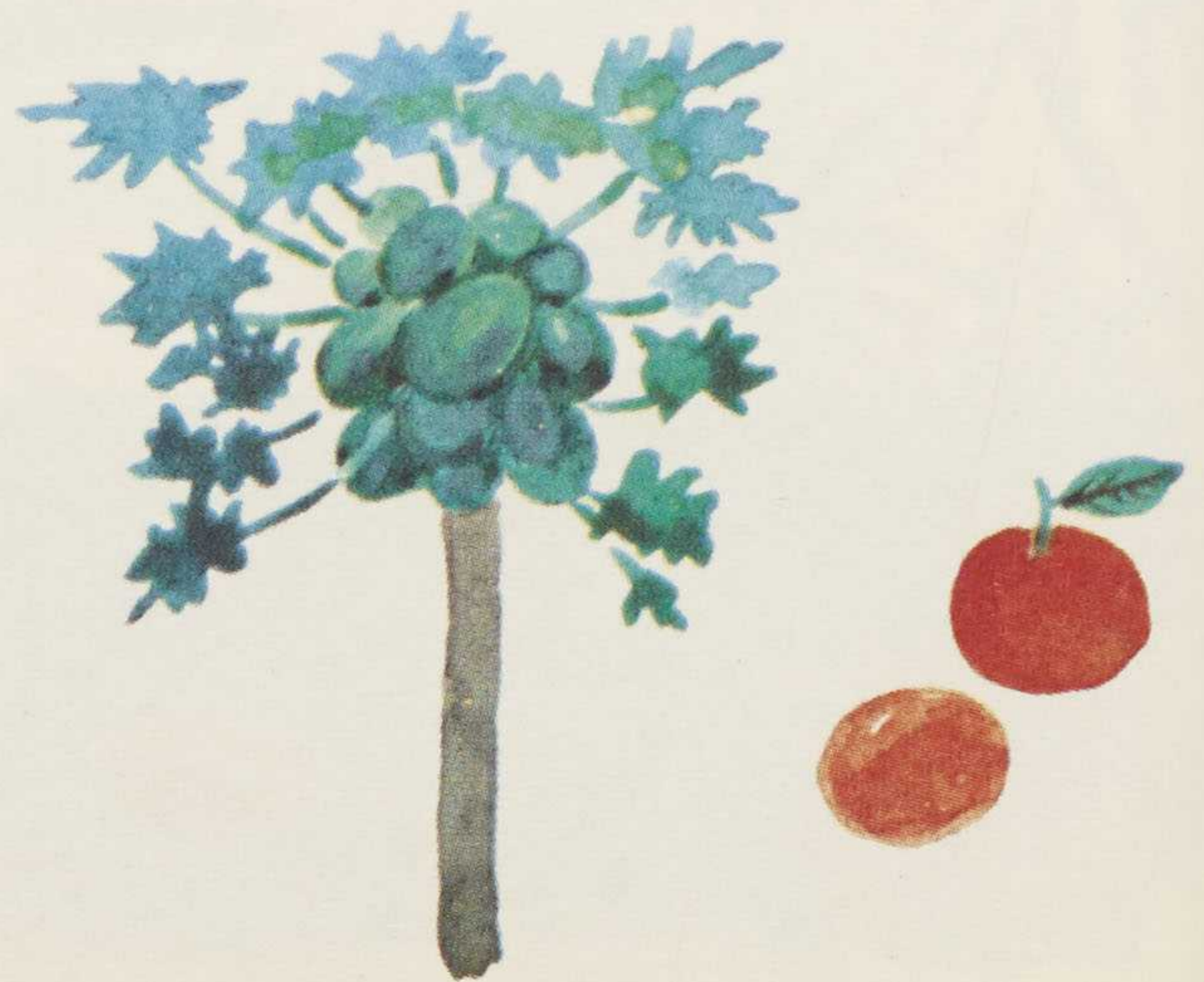




みかんや パパイアの たねは、とりに  
 はこんで もらいいます。

たんぽぽの たねには、わたの ような  
 パラシユートが ついて います。

たんぽぽの たねは、かぜに  
 のって 空を とびます。





たねは、海をわたる ことが  
できるでしょうか。

やしの みは、ときどき 海を  
わたります。

やしの みは、うきぶくろの  
ように、海に うかびます。

やしの みは、なん日も 海に  
うかんで、とおい 島に つきます。





やしの みは、そこで、

あたらしい 木に なります。

むかし、ハワイには、

花も 木も ありませんでした。

いろいろの たねが りようして

きて、こんなに きれいな

島に なりました。





まとめとれんしゅう  
8

せかいじゅう

にっぽんじゅう

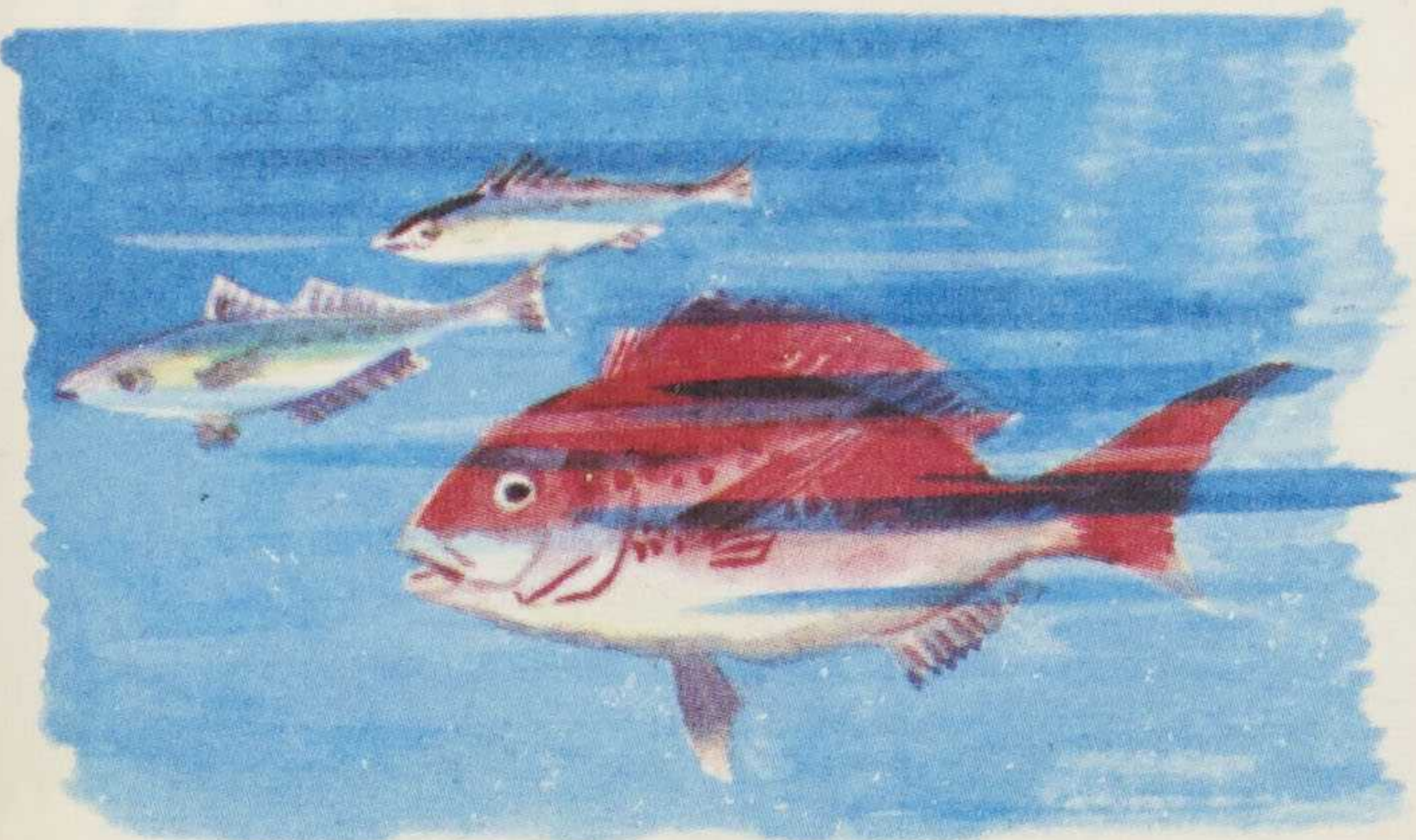
アメリカじゅう

ハワイじゅう

うきぶくろのように うかびます。

とりのように とびます。

さかなのように およぎます。





できます

できるとしよう

たべます

たべるとしよう

みます

みるでしょう

花が ありませんでした。

花も 木も ありませんでした。

木が ありませんでした。

とりが いませんでした。

とりも どうぶつも

どうぶつが いませんでした。

いませんでした。

かんじ 空 海 木 花 日 島

パラシユート  
ぱらしゅと



5 うらしまたろう

ある日、うらしまたろうは、  
海へ さかなをつりに  
いきました。  
はまで、子どもたちが  
かめを いじめて  
いました。





うらしまたろうは、かめが  
かわいそうになりました。  
「小さい どうぶつを  
いじめては いけません。」  
うらしまたろうは、  
子どもたちから かめを  
かいました。そして、海へ  
はなして やりました。





ある日、大きなかめが、  
うらしまたろうを  
むかえにきました。  
「このあいだは、ありがとう」  
ございました。おれいに、  
りゅうぐうへつれて  
いってあげましょう。」





うらしまたろうは、かめの  
せなかに のりました。  
かめは、海の中を  
およいで いきました。  
そして、海の そこの  
りゅうぐうへ つれて  
いきました。





りゆうぐうには、おとひめさまが  
まっぺ いました。

おとひめさまは、うらしまたろうを

きれいな ごてんに あんない 〓

しました。たくさん、ごちそうを

だしました。





いろいろの さかなたちが、  
でて きました。

さかなたちは、めずらしい  
おどりを みせました。

うらしまたろうは、

まいにち たのしく

くらししました。





ある日、うらしまたろうは、  
うちを おもいだしました。  
そして、おとひめさまに、  
「いろいろ ありがとう」  
「ごぞいます。もう、  
うちへ かえります。」  
と いいました。





おとひめさまは、うらしま  
たろうに「たまてばこを  
くださいました。そして、  
「この たまてばこは、  
けっして あけては  
いけません。」  
と いいました。





うらしまたろうは、はまへ

かえりました。けれども、じぶんの

村も うちも ありませんでした。

おとうさんも おかあさんも

いません。しっぺ いる 人は、

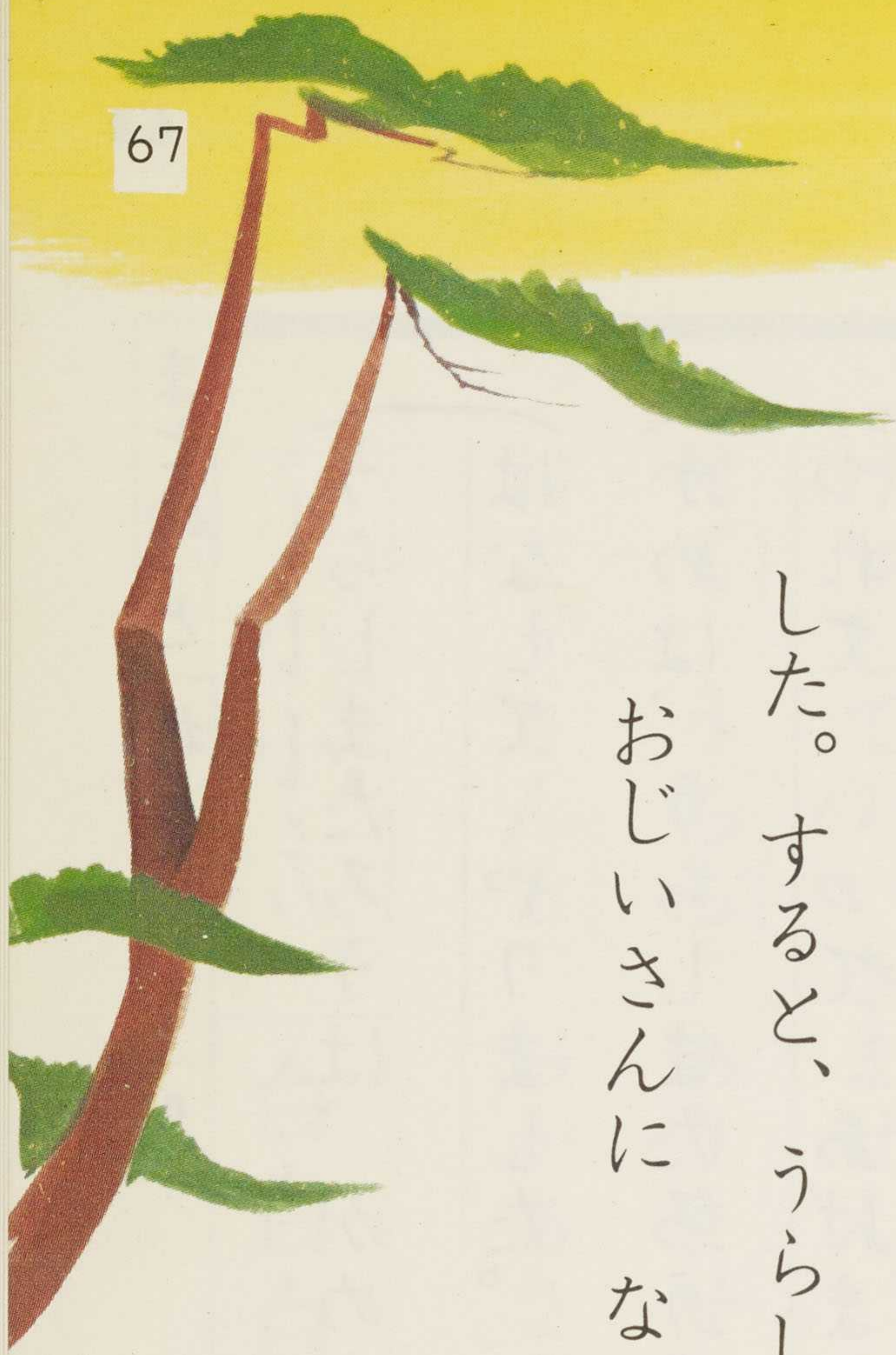
ひとりも いません。





うらしまたろうは、かなしく  
なりました。おとひめさまの  
ことばを、わすれて、たまたま  
ばこを あけました。中から、  
白い けむりが、ぱっと でま

した。すると、うらしまたろうは、  
おじいさんになって しまいました。





まとめとれんしゅう 9

うらしまたろうは、かめを 海へ

はなして やりました。

かめは、うらしまたろうを、りゅうぐうへ

つれて 行って あげました。

おとひめさまは、うらしまたろうに

たまたばこを くださいました。

おとうさんは、わたしに

ほんを かって くださいました。





小小ちいさい

白白しろ白

たのしく くらしました。

たのしく あそびました。

かなしく なりました。

おもしろく なりました。

けっして あけては いけません。

けっして いきません。

村も うちも ありません。

おとうさんも おかあさんも いません。





なつやすみに したい こと

せんせいが、みんなに、一まいずつ かみを  
くばりました。そして、

「もう すぐ なつやすみです。」

なつやすみに、どんな ことを したいですか。

この かみに、かいて ください。」

と いいました。みんなが かいて、せんせいに  
だしました。





わたしは、おじさんのうちへいきます。  
 そこには、小さなヨットがあります。  
 わたしは、まいにち、そのヨットにのりたいと  
 おもいます。

なつお



にっぽんの おばさんから、本を いただき  
 ました。大きな あつい 本です。

にっぽんごの おはなしの 本です。

すこし むずかしいです。けれども、

なつやすみに みんな よみたいと

おもいます。

はるこ





わたしは、モデルの  
ひこうきを  
つくりたいです。

にいさんは たいへん  
じょうずです。

わたしは まだ  
へたです。けれども、

なつやすみに、  
じょうずに  
なりたいと

おもいます。

いちろう





わたしは、ねえさんのうちへいきます。

ねえさんのうちは、花やさんです。

にぎやかな町にあります。わたしは、

みせで花をうりたいとおもいます。

はなこ





まとめとれんしゅう 10

じょうずに なります → じょうずに なる

へたに なります → へたに なる

きれいに なります → きれいに なる

しずかに なります → しずかに なる

したいです → したいと おもいます

のりたいです → のりたいと おもいます

よみたいです → よみたいと おもいます

うりたいです → うりたいと おもいます





わたしは、おばさんから 本を いただきました。

おばさんは、わたしに 本を くださいました。

わたしは、おとうとから えんぴつを もらいました。

おとうとは、わたしに えんぴつを くれました。

小さい ヨット → ヨットは 小さいです。

大きな 本 → 本は 大きいです。

にぎやかな 町 → 町は にぎやかです。

モデル

ヨット

もでる

よつと

本本本本ほん

かんじ



人 <small>ひと</small>	男 <small>おとこ</small>	大 <small>おお</small> き な	カ <small>ちから</small>	北 <small>きた</small>	花 <small>はな</small>	町 <small>まち</small>	木 <small>き</small>
15	15	14	14	14	8	5	4
人が います	男の 人	大きな うち	力が つよい	北か ぜ	きれいな 花	町を つくる	木を うえる
西 <small>にし</small>	東 <small>ひがし</small>	空 <small>そら</small>	高 <small>たか</small> い	犬 <small>いぬ</small>	王 <small>おう</small>	島 <small>しま</small>	海 <small>うみ</small>
39	39	34	34	27	27	25	24
西の 空	東の 山	空の 上	高い 空	キハの 犬	王さま	ハワイ島	海の 上
本 <small>ほん</small>	白 <small>しろ</small> い	小 <small>ちい</small> さい い	水 <small>みず</small>	土 <small>つち</small>	村 <small>むら</small>		
72	67	59	45	44	40		
おはなしの 本	白い けむり	小さい かめ	水を やる	土を いれる	村の 子ども		

かんじ

もてる  
よ



ン	ワ	ラ	ヤ	マ	ハ	ナ	タ	サ	カ	ア
リ			ミ	ヒ	ニ	チ	シ	キ	イ	
ル	ユ	ム	フ	ヌ	ツ	ス	ク	ウ		
レ			メ	ヘ	ネ	テ	セ	ケ	エ	
ヲ	ロ	ヨ	モ	ホ	ノ	ト	ソ	コ	オ	

かたかなと

ん	わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
	り		み	ひ	に	ち	し	き	い	
	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う	
	れ		め	へ	ね	て	せ	け	え	
	を	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お

ひらがな

・は このほんにでたかたかな

ば	ば	だ	ざ	が	パ	バ	ダ	ザ	ガ
び	び	ぢ	じ	ぎ	ピ	ビ	ヂ	ジ	ギ
ぶ	ぶ	づ	ず	ぐ	プ	ブ	ヅ	ズ	グ
べ	べ	で	ぜ	げ	ペ	ベ	デ	ゼ	ゲ
ぼ	ぼ	ど	ぞ	ご	ポ	ボ	ド	ゾ	ゴ

三ねん上にでたかんじ



ピ	ビ	ヂ	ジ	ギ	リ	ミ	ヒ	ニ	チ	シ	キ
ヤ	ヤ	ヤ	ヤ	ヤ	ヤ	ヤ	ヤ	ヤ	ヤ	ヤ	ヤ
ピ	ビ	ヂ	ジ	ギ	リ	ミ	ヒ	ニ	チ	シ	キ
ユ	ユ	ユ	ユ	ユ	ユ	ユ	ユ	ユ	ユ	ユ	ユ
ピ	ビ	ヂ	ジ	ギ	リ	ミ	ヒ	ニ	チ	シ	キ
ヨ	ヨ	ヨ	ヨ	ヨ	ヨ	ヨ	ヨ	ヨ	ヨ	ヨ	ヨ
ぴ	び	ぢ	じ	ぎ	り	み	ひ	に	ち	し	き
や	や	や	や	や	や	や	や	や	や	や	や
ぴ	び	ぢ	じ	ぎ	り	み	ひ	に	ち	し	き
ゆ	ゆ	ゆ	ゆ	ゆ	ゆ	ゆ	ゆ	ゆ	ゆ	ゆ	ゆ
ぴ	び	ぢ	じ	ぎ	り	み	ひ	に	ち	し	き
よ	よ	よ	よ	よ	よ	よ	よ	よ	よ	よ	よ

十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	三
と	こ	や	な	む	い	よ	み	ふ	ひ	ね
お	この	はち	なち	ろく	ご	し(よ)	さん	に	いち	ん
じ	の	つ	つ	く	つ	つ	つ	た	つ	上
ゆう	つ									に
	子	月	日	口	川	山	下	中	上	で
	こ	つ	ひ	く	か	や	した	なか	うえ	た
		が	に	ち	わ	ま		か	え	かん
		き	ち	ち						じ



東京都千代田区霞が関3-2-2

文化庁文化部国語課

下ね三 ほん のごの ぽん

一九六九年一月十日 印刷  
一九六九年一月二十日 発行

責任編集 釘 本 久 春  
東京外国語大学教授

製作 日本出版貿易株式会社  
東京都千代田区神田猿樂町一の三

印刷 凸版印刷株式会社  
東京都台東区台東一の五  
表紙挿絵 山田貞実・田中春弥・中村千尋

発行 ハワイ教育会  
ハワイ州ホノルル市  
HAWAII KYOIKU KAI  
620 Waipa Lane  
Honolulu, Hawaii 96817



132691

国立国語研究所



1002065082



なまえ

東京都千代田区霞が関3-2-2

文化庁文化庁国語課

H45

7

2